

技術検討会議向け資料

サービスデザイン関連 ガイドブック整備状況について

2025/3/24時点 技術検討会議サービスデザインTF

DS-600番台 各文書の位置づけと提示時期

DS 67x HCI (ユーザビリティ・アクセシビリティ)

- | | |
|---|----------------|
| ・ DS-670 ユーザビリティガイドライン (Normative) | 今年度 (提示済み) |
| ・ DS-671.1 ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック (Informative) | 今年度 (3月各省照会) ※ |
| ・ DS-671.2 ユーザビリティ導入ガイドブック (Informative) | 今年度 (3月各省照会) |
| ・ DS-672 ウェブアクセシビリティ広報向けガイドブック
(Informative) | 今年度 (3月各省照会) |
| ・ DS-675.1 デザインシステム (参考資料) | 今年度 (提示済み) ※ |
| ・ DS-675.2 UIチェックリスト (参考資料) | 今年度 (提示済み) |

DS 68x コンテンツデザイン・コミュニケーションデザイン

- | | |
|---|------------|
| ・ DS-680.1 ウェブサイトガイドライン (Normative) | 今年度 (提示済み) |
| ・ DS-680.2 ウェブコンテンツガイドライン (Normative) | 今年度 (提示済み) |
| ・ DS-682.1 ウェブサイトガイドブック (Informative) | 来年度 |
| ・ DS-682.2 ウェブコンテンツガイドブック (Informative) | 来年度 |
| ・ DS-682.3 ダッシュボード設計開発実践ガイドブック
(Informative) | 提示見送り※ |

※デジタル庁の内規・庁内向け文書としてウェブサイト等で公開済みの文書

新規に追加した資料

すぐに使えるチェックリスト等を、参考資料の位置づけで追加

- ・ 参考資料（ユーザビリティ） フロントサービス調達仕様書テンプレート集
- ・ 参考資料（ユーザビリティ） 中間成果物の書式集
- ・ 研修補助資料（ユーザビリティ） エクササイズ集
- ・ 参考資料（ユーザビリティ） 遵守状況チェックリスト（Excelファイル）
- ・ 参考資料（アクセシビリティ） 広報向けコンテンツチェックリスト（Excelファイル）
- ・ 参考資料（ウェブコンテンツ） メタデータ定義サンプル
- ・ 参考資料（ウェブコンテンツ） 法律・制度に基づき本省サイトに掲示すべき事項（Excelファイル）
- ・ 参考資料（ウェブコンテンツ） 遵守状況チェックリスト（Excelファイル）
- ・ 参考資料（ウェブサイト） 遵守状況チェックリスト（Excelファイル）

DS-671.2 ユーザビリティ導入ガイドブック

重要ポイント カッコ内は章・項目番号

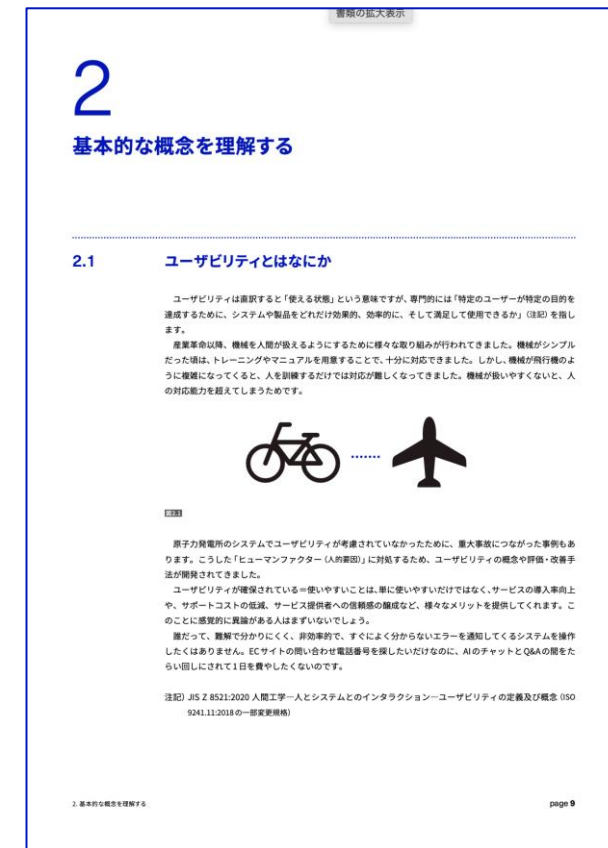
ユーザビリティデザインの基本的な知識、導入プロセスを解説。

特に、情報システムの設計プロセスで重要な
操作ミスの防止や対策に向けた手法を重点的に解説。

- 基本的な概念
- デザイン原則
- デザインプロセス
- デザイン評価の実施
- 使用エラー
- 安全設計とリスクマネジメント
- リスク情報を活用した意思決定

支援ツール（参考）

- 参考資料（ユーザビリティ） フロントサービス調達仕様書テンプレート集
- 参考資料（ユーザビリティ） 中間成果物の書式集
- 研修補助資料（ユーザビリティ） エクササイズ集
- 参考資料（ユーザビリティ） 遵守状況チェックリスト（Excelファイル）



DS-671.1 ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック

重要ポイント

ウェブアクセシビリティの基本的な知識、導入プロセスを解説。

JISの規格や試験方法等に慣れていない行政官が
ゼロから学び・実践・導入できることを目標にしたガイドブック。

- ウェブアクセシビリティの基礎
- ウェブアクセシビリティで達成すべきこと
- ウェブアクセシビリティの実践プロセス
- こんな時は

広報担当者向けには新たに「ウェブアクセシビリティ広報向けガイドブック」を用意（次頁）。

※2022年12月に公開し更改を重ねてきたもの。

多くの行政サービス・ウェブサイトの調達時は、JIS X 8341-3:2016と対応度表記ガイドラインを参照してどの程度まで対応するかを定め、調達を行います。調達仕様書にも明確に定義しておく必要があります。

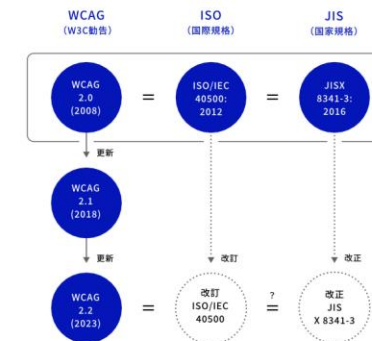


図2-3 ウェブアクセシビリティのガイドラインと規格の関係

他によく参照される基準等の考え方

みんなの公共サイト運用ガイドライン

「みんなの公共サイト運用ガイドライン」(2024年版)
※は、公的機関がウェブアクセシビリティの確保・維持・向上に取り組み際の支援を目的として作成された手順書で、JIS X 8341-3:2016に対応しています。ただし、技術仕様・チェックツール・開発フローは日々新しくなっていますので、その時々状況に合わせた仕様やツールを使うことを推奨します。



※みんなの公共サイト運用ガイドライン (2024年版)

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/guideline.html

情報アクセシビリティ自己評価様式

現在、企業が自社で開発するICT機器・サービスについて「情報アクセシビリティ基準を満たしているかを自己評価する様式※」の整備が進められていますが、ウェブアクセシビリティにおいては技術基準にJIS X 8341-3:2016の達成基準が取り込まれています。

※情報アクセシビリティ基準を満たしているかを自己評価する様式

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/b_free02.html#b3-1

DS-671.1 ウェブアクセシビリティ広報向けガイドブック

重要ポイント

ウェブアクセシビリティの基本的な知識、導入プロセスを
広報担当者・コンテンツ運用者向けに限定して解説。

JISの規格や試験方法等に慣れていない行政官が
広報実務の現場でアクセシビリティを導入できることを
目標にしたガイドブック。

- 広報活動におけるアクセシビリティの基礎
- 動画配信におけるアクセシビリティ
- SNSにおけるアクセシビリティ
- 評価と改善

アクセシビリティの確保が情報システムの設計・開発だけではなく
コンテンツ運用の視点でも重要であるために作成。

手話

手話は、手と腕の動き、顔の表情または身体の姿勢の組み合わせを用いる言語で、動画の音声情報に同期して提供するものです。動画の中を含めたかたちで動画を作成する必要があります。聴覚障害者向けに特化した動画や、手話をテーマにしたコンテンツの場合に対応を検討してください。



03:32

映像情報に対する代替コンテンツ

音声ガイド (音声解説)

音声ガイドは、主音声の内容に含まれない映像情報を補足する主音声とは別の音声情報です(テレビの二重音声放送でいう副音声に相当します)。動画の冒頭や場面転換時など、主音声が存在しないタイミングで、登場人物や場面に関する説明を加えるもので、主音声とは異なる声色・トーンで提供されることが通常です(主音声に加えて音声ガイドまで含めて動画音声とするものです)。

インタビュー映像や対談映像のような、映像情報のすべてが主音声に含まれている場合には、音声ガイドはなくても構いません(話者の入退場、ふるまい、周辺風景等を説明するために音声ガイドを提供する場合があります)。

映像情報、音声情報の両方に対する代替コンテンツ

書き起こしテキスト

書き起こしテキストは、動画で流れた音声情報を文字として書き起こしたテキストです。配信サービスやソフトウェアの機能で提供され、自動で書き起こされてまとめたテキストとして取り出すことができます。書き起こしテキストは、動画の埋め込まれた位置の前か後ろに配置するのが通常です。例えばYouTubeでは、説明(description)欄には最大5000文字まで入力可能となっていますので、ここに、書き起こしテキストを直接入れる場合もあります。もしくは、書き起こしテキスト単体のテキストファイルを作成してリンクしても構いません。

書き起こしテキストを手動で作成する場合は、キャプション(字幕)と同様に流れた会話や音声自体だけでなく、効果音の説明や、音楽が流れていることの伝達等を含める必要があります。